

青森家庭少年問題研究会では、25年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生を対象に、学習支援活動を行っています。

青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、ひとり親家庭の子どもたち10人を対象に、ボランティア登録してくれた県立保健大学の学生さんなどが、子どもたちの学習進度に合わせて1対1を原則に勉強を教えています。

■高校受験大詰めです。

新年を迎え、中3生は、高校受験の願書提出締切が迫り、最終的な志望校の決定時期です。県立高校の試験日は3月10日、残すところ1月余りとなりました。

受験生も、支援を行う学生さんも、受験勉強に熱が入ります。過去問や模擬問題を中心に、受験本番を意識しながら、一問一問解いて、できなかったところを確認し、知識を確実に身につけていっています。試験当日は、体調を万全にし、持てる力を最大限に発揮して欲しいと願っています。



■支援活動の研究発表を行いました。

去る12月14日、県立保健大学で行われた2019青森県保健医療福祉研究発表会で、皆さまの御協力をいただき、「サタディ☆くらぶ」の活動について、研究報告を

させていただきました。

学習支援活動に見る「メンタリング」の機能について～大学生ボランティアへの意識調査の結果から～と題し、学習支援活動を通じて大学生ボランティアに生じた子どもに対する「気持ち」を整理することで、学生の働きかけが子どもの変容にどのように関与するかの視点を整理したものです。

この中で、子どもとの信頼関係の深まりが、子どもの変容に影響を与えることが確認されたこと。また、学生さんの熱意の一方で、その信頼関係の形成に悩みやとまどいもあることも浮き彫りになりました。

今後は、子ども一人ひとりの特性や効果的な関わり方を学生・スタッフで随時共有できる仕組みを作ることで、効果的な支援が行われる体制づくりに努めていきたいと考えています。

子どもの学習支援活動に見る「メンタリング」の機能について
 ～大学生ボランティアへの意識調査結果から～【抄】

最上和幸¹⁾

1) 青森家庭少年問題研究会・青森県社会福祉士会
 Key Words: ①ひとり親家庭 ②学習支援 ③メンタリング

II. 目的

学習支援活動における子どもの変容を促すものとして、「メンタープログラム」のような大学生などの1対1の関係築くことの効果が指摘されている(2014阿部)。

「メンタリング」とは、「成熟した年長者であるメンターと、若者のメンティとが、基本的に1対1で、継続的定期的に交流し、適切な役割モデルの提示と信頼関係の構築を通じて、メンティの発達支援を促す関係性」(2009渡辺)であり、研究対象となる本学習支援の関係性と類似している。

このことから、本研究では、今後、学習支援活動における子どもの変容を促す学生ボランティアと子どもの関係性の構造について調査研究していくに当たり、予備的に、学生の側から子どもに対して生じた気持ちを整理することにより、学習支援活動におけるメンタリングの機能、関係性を測る視点について整理するものである。

IV. 結果と考察

- ・学習支援に参加する学生には、子どもに対する羨しみの気持ちと子どもの力になりたいという思いが見て取れる。一方、子どもと接する上での緊張やストレス、とまどいなどネガティブな感情も多く見られている。
- ・子どもの指導に関しては、勉強の指導だけでなく、勉強に向き合う態度、意欲、子ども同士の人間関係などに及び、その指導・支援の仕方について、意欲や悩みを持っている。
- ・特に、子どもと学生の間接づくりやコミュニケーションについては、子どもと接する中での喜びを感じる一方、悩みや戸惑いを多く持っていることが確認された。
- ・さらに、学生の関心は、学習面だけでなく、対象となる子どもの性格、ストレス、学校生活家庭生活、子どもの将来に及んでいる。
- ・メンタリング関係は、個人対個人の関係であるが、個人のメンター活動を円滑に行う上で、組織的な対応は重要である。今回、「子どもに対する気持ち」を調査したにもかかわらず、「学習会について」の回答があったのは、学習会の運営自体の重要性を示唆している。

以上のことから、学習支援活動においても、メンタリング機能として挙げられている「キャリア機能」に相当する「学習支援機能」と子どもの心理的、社会的発達を促す「心理・社会機能」が認められ、学生には、単に勉強を教えるだけの「実務的關係」だけではなく、「情緒的關係」を重視し、それを深めていこうとする意識が確認された。